



REAL RACING

2019年5月19日(日)大分県・オートポリスで2019年全日本スーパーフォーミュラ選手権 第2戦が開催された。

リアルレーシングは今大会直前にドライバー変更を発表し、昨年までスーパーフォーミュラ17号車を駆っていた塚越広大を起用。残り全戦を戦っていくこととなった。復活レースとなる塚越の走りに注目が集まる中、今大会を迎えた。

5月18日(土)当初予定されていた予選日。朝から強い風を伴った雨に見舞われ、コース状況が整わず、午前中に予定されていたフリー走行は定刻から30分遅れて開始され、各チームはコースインしたものの、雨の影響でコースオフするマシンが多数発生する。塚越も雨の中での予選に備え、危険なコンディションの中ウェットコンディションでのマシンセットアップを進めていく。その後も天候の復活が見込めず、2度目の赤旗が掲出されたままフリー走行は終了することとなった。この後15時から公式予選を予定していたが、午後に行われたピットウォーク終了後も強風に伴う横殴りの雨が降るとい荒れた天候に急遽エントラントミーティングが行われた結果、この日の予選開催はキャンセルとなり、翌朝に順延されることとなった。

5月19日(予選/8時45時点)

天候:雨

コースコンディション:ウェット

気温:17°C 路面温度:17°C

5月19日(日)当初フリー走行を予定していた時間を拡大し、8時45分から開始された予選はノックアウト方式から計時予選に変更され行われた。前日の天気予報では、朝からドライコンディションになることが想定されていたが、残念ながら予選が開始される頃には前日と大きく変わらない強風と雨になってしまう。#17 塚越広大は2018年最終戦ぶりの予選をシビアなウェットコンディションで迎えることとなった。コースオープンするとウェットタイヤを装着した塚越はコースイン。オートポリスを得意とする塚越は視界が悪くタイヤもグリップしづらい厳しいコース状況と今シーズンのマシンを改めて体感しながら予選のアタックラップに入っていく。セッション開始から6分が経過し、塚越が最初のアタックに入ろうとした矢先に他マシンがコースサイドにマシンをとめた為、赤旗が掲出された。赤旗が解除され、残り時間が18分というところでセッションは再開されるも、この後2度の赤旗が掲出され計3回目となる赤旗により、予選はこのまま終了となった。塚越は予選開始早々の計測タイムにて午後の決勝グリッドが決定され9番手からのスタートとなった。



REAL RACING

5月19日(決勝/14時時点)

天候:曇り

コースコンディション:ドライ

気温:19°C 路面温度:22°C

予選の荒天から一転してドライコンディションで迎えたスーパーフォーミュラ第2戦は定刻14時となり54週の決勝レースが開始された。#17の塚越はソフトタイヤを装着、復活レースとなる第2戦の決勝を9番グリッドからスタートさせた。塚越は、オープニングラップの終わりに7番手でコントロールラインを通過し、さらなるポジションアップを目指し虎視眈々と前を狙う。だが3周目に入り他チーム車両のスピンにより黄旗が掲出されるとセーフティカーがコースインすることになってしまう。塚越はこのタイミングでタイヤ交換義務の為にピットインし、ソフトからミディアムヘタイヤ交換を行った。その後7周目の終わりにセーフティカーが退出するとレースは再スタートをきる。その際11番手を走行していた塚越は、他チームにオーバーテイクを喫し14番手までマシンを後退させてしまう。その後、他チームがソフトタイヤでタイムアップし走行を続ける中、ミディアムタイヤで厳しい走行をする塚越は12周目に入り、さらにポジションを下げて、16番手を走行することになってしまう。その後もミディアムタイヤで苦しい戦いを続けた塚越は、諦めず54周を走り抜き、15位でチェッカーを受けることとなった。

今大会の直前にドライバーの変更を発表いたしまして、ファンの皆さまを驚かせてしまったことと
思います。この第2戦から、塚越広大選手をリアルレーシングのドライバーとして再度迎え、
2019年シーズンを戦っていくこととなりました。共に戦ってきたこれまでの実績を生かし、改めて
リアルレーシングらしいレースをご覧いただけるように塚越選手と共にチーム一丸となって戦って
参ります。

次戦スポーツランドSUGO大会も皆様のご声援と共に、勝利目指して戦って参ります。

引き続き応援をよろしくお願い申し上げます。